



からだにいいはなし

すいがん

膵癌のおはなし 3

膵癌の検査のおはなしです。

超音波検査で異常があれば次の検査に進みます。また、超音波では異常がはっきりしない場合も、症状や血液検査の結果で、膵臓や胆管などに病気のある可能性があれば、CT検査やMRI検査などを施行します。

ERCPという検査を行う場合もありますが最近では、MRIを利用してERCPと類似した情報を得ることができます。また、血管造影が必要なこともあります。造影CTで血管造影と類似した情報を得ることができますので、造影CTのみで診断することが多いようです。

黄疸のある場合には、超音波検査で胆管がつまっているかどうかを確認します。胆管がつまって太くなっている場合（閉塞性黄疸）には、超音波で観察しながら肝臓の中の胆管に針を刺し、これを利用して細い管を胆管の中に入れます。この管から造影剤を注入すると胆管がどこでつまっているかわかります。これをPTCといいます。また、この管をそのまま留置し胆汁を外に誘導して黄疸を治療することをPTCDといいます。

四万十町国保大正診療所

西尾美紀・岡崎弘泰・大川剛史



熱中症を防ごう！



地球温暖化による気温上昇に伴って、増加が予想される熱中症。節電も大事ですが、熱中症をしっかり予防して、この夏を乗り切りましょう。

熱中症は、高温によって体温の調節機能が異常をきたし、体内の水分や塩分のバランスが崩れて起きる障害です。

家の中にいても、室温や湿度が高いと熱中症になる場合があるので、気をつけましょう。

特に体温調節機能が未発達な「幼児」や体温調節機能が衰え、暑さを感じにくくなる「高齢者」は、季節を問わず注意が必要です。

【主な症状と対処】

軽 症	めまい・立ちくらみ・こむら返り・大量の汗 涼しい場所へ移動し、水分・塩分を補給しましょう。
中等症	頭痛、吐き気、体がだるい 涼しい場所で足を高くして休息し、水分・塩分を補給しましょう。冷たいタオルなどで首周り、脇の下、太ももの付け根を冷やします。水が飲めなかったり、動けない場合等は救急車を呼んでください。
重 症	意識障害(呼びかけに対し反応がおかしい)、けいれん、高体温 すぐに救急車を呼んでください！涼しい場所で待つ間、冷たいタオルなどで首周り、脇の下、太ももの付け根を冷やします。

熱中症予防のポイント

重要！

○水分摂取と発汗時の塩分補給

意識してこまめに水分をとりましょう。

水分を制限されている方を除き、1日1.5～2リットルが目安です。但し、カフェインを多く含むコーヒーやビールなどのアルコールは利尿作用があり、逆効果です。大量に汗をかいた時は、スポーツドリンクや梅干し等で塩分を補いましょう。

○室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を使いましょう。

○風通しのよい、吸湿性のある服を着ましょう。

○外出時は帽子や日傘を使用し、時折涼しい木陰や冷房のある場所で休息しましょう。

○日頃から睡眠や栄養を十分にとりましょう。



【お問い合わせ先】 健康福祉課 ☎22-3115